

年の始めに

ー開倫塾の現中3生よ、ミャンマーの小学5年生に英語で負けるなー

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

昨年11月20日より、8日間、栃木県経済同友会アジア部会の主催によるミャンマー経済視察団に参加した。薄暗い工場で働いている人に一日いくらもらえるかと聞けば30チャット(1チャット約1円)ですとの答え。(1日8時間労働なので1時間3円75銭。)お休みはとたずねれば満月の日だけですとの答え(つまり、1カ月約1日。)であった。

アンサン・スーチンさんが自宅軟禁から解かれた今年の8月以降はシンガポールやタイの華僑の人たちを中心に、各国の経済人が堰を切ったようにミャンマーを訪れ、ホテルや工場をはじめいろいろな会社を設立して仕事をしはじめた。慎重な日本は、ベトナムにつづき、ミャンマーにも経済視察団を9月以降大量に派遣して果たしてどのような援助ができるのか調査研究を重ねている。(ただし、日本国民から税金の使い途をまかされている日本政府がミャンマーに出す政府開発援助(ODA)は、各国と比べてミャンマーでも日本が一番金額が多く、看護婦さんを養成する看護学校の建設などミャンマーの人々に直接役に立つことに使われているようだ。)

工場に働く人たちだけでなく、ミャンマー政府に勤める人たちも収入が月1000チャット(約1000円)と少なく、生活は厳しいようだが、その話す英語は素晴らしいものであった。前置きが長くなったが、ミャンマーの小学生の英語教育について今回はお話をします。

2. ミャンマーの小学5年生の英語のテキストは日本の中3から高1レベル

日本で高校や大学を出た人は、あまり上手に英語を聞き取ることができず、従って英語で自分の考えを十分に述べることもできない人が多い。今回出会ったミャンマーの高校や大学を卒業した人たちは、素晴らしい発音で皆よく英語を話した。一体いつ頃から、週にどのくらいミャンマーの人たちは英語を勉強しはじめるのかと質問したら、何をあたりまえなことを質問するのかという顔つきで「当然小学校の1年生から毎日1時限(45分)つまり週5回勉強しています。日本ではちがうのですか。」という返事であった。

首都ヤンゴンの市場に行き、本屋さんらしき屋台のお店を見つけ、ミャンマーの文部省で出している小学校1年から5年までの英語の教科書を見つけ買い求めて驚いた。5冊で200チャット(約200円)と値段の安さと黒ずんだ紙の色に驚いたのではない。小5の教科書で現在完了形まで終わっている、つまり日本の中3レベルまで学習し終えていることに驚いたのである。中学・高校に行っても小学校同様毎日1時限の英語の授業があり、学年がすすむにつれて英語以外の科目も英語による授業がなされ、大学では多くの科目が英語のみによって教えられ、学生はレポートや試験の答案を英語で書くという。

3. おわりに

今年から、開倫塾では今までにも増して英語教育に力を入れ、少なくともミャマーの小学5年生に負けない力を、開倫塾の中学生だけでなく小学生にも身につけて頂くよう全力を尽くすことにする。とりあえず、現中2生から、中3になったら全員実用英語検定3級に合格できるよう、4級試験の終わるこの2月から万全の指導をさせて頂く。中3で英検3級合格を果たすためにも、1月20日の英検では是非中2生全員が4級を、中1生全員が5級を取得するようがんばって頂きたい。

小学校から英語を勉強していない国は日本くらいしかなく、中学校からスタートしても学校での授業時間が少ないため外国の高校や大学卒業者と比べ英語力が弱いのが日本である。将来困るのは、当事者である皆さんであることは目に見えているので、開倫塾でできることは、何でもこれからさせて頂くので、是非塾生の皆さんも大いに開倫塾で今までにも増して英語を勉強して欲しい。がんばりましょう。